

## 平成29年第9回函館市教育委員会定例会 会議録

- |      |       |  |         |
|------|-------|--|---------|
| 1    | 日 時   | 平成29年9月27日(水)  | 午後1時30分 |
| 2    | 場 所   | 五稜郭中学校   |         |
| 3    | 出席者   | 辻教育長, 藤井委員, 小葉松委員, 須田委員, 青田委員  |         |
| 4    | 欠席者   |  |         |
| 5    | 事務局   | 小林生涯学習部長, 木村学校教育部長, 佐藤生涯学習部次長,<br>鶴喰生涯学習部次長, 柴田学校再編・計画担当課長, 田中教育指導課長 |         |
| 6    | 傍聴者   | なし   |         |
| 7    | 付議事項  |  |         |
| 日程第1 | 視 察   | 授業視察   |         |
| 日程第2 | 議案第1号 | 函館市文化財保護審議会委員の委嘱に関し, 議決を求めることについて                                    |         |
| 日程第3 | 議案第2号 | 平成29年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載に関し, 議決を求めることについて             |         |
| 追加日程 | 報告事項  | 学校給食における異物混入事故について   |         |
| 日程第4 | 懇 談   | 五稜郭中学校関係者との懇談  |         |

### ■辻教育長

- 開会宣言 午後1時30分
- 議事録署名人に, 藤井委員, 小葉松委員を選任。
- それでは, 日程第2, 議案第1号「函館市文化財保護審議会委員の委嘱に関し, 議決を求めることについて」を諮る。

### ■生涯学習部長

- 議案第1号「函館市文化財保護審議会委員の委嘱に関し, 議決を求めることについて」説明する。
- 委員の任期満了に伴い, 石王 紀仁 氏ほか9名を, 平成29年10月1日から平成31年9月30日まで委嘱しようとするものである。

### ■辻教育長

- 議案第1号について, 何かあるか。  
(意見なし)
- 議案第1号については, 原案のとおり決定する。
- 次に, 日程第3, 議案第2号「平成29年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載に関し, 議決を求めることについて」を諮る。

### ■学校教育部長

- まず、今年度の「全国・学力学習状況調査」の結果概要について報告する。
- 本市の学力の状況は、
  - ・全体として上昇傾向にある。
  - ・国語は、小・中学校ともに、ここ数年全国平均並みである。
  - ・算数・数学は全国平均より低い状態である。
- 次に、今年度の函館市の小学校6年生と中学校3年生の平均正答率であるが、小学校国語については全国平均を上回り、小学校算数と中学校については、全国平均を下回った結果となっている。
- 平成19年度からの全国平均正答率との差の経年変化であるが、年度によって波はあるものの、全国との差が縮まり、徐々に上昇傾向にある。
- 教科別領域別の標準化得点のレーダーチャートは、小・中学校とも全国・全道とほぼ同じ形になっているが、国語の「書くこと」の領域が、若干、全国・全道よりも低い状況にある。
- 今年度の無回答率の状況および平成19年度からの経年変化であるが、全国、全道、本市とも年度ごと同じような傾向になっているが、本市においては、全国、全道に比べると中学校の数学B以外の無回答率は低い傾向にあり、本市の子どもたちが、あきらめずに最後まで粘り強く回答していることが読み取れるものである。
- 公表についてであるが、本市が目指す子ども像に近づくためには、子どもたちのよさや課題を分析し、本市全体の児童生徒の状況を表す情報を、できる限り市民とともに共有することが重要であると考えていることから、今年度の全国学力・学習状況調査の結果についても、昨年度同様、本市全体の平均正答率等を数値やグラフ等の方法で公表したいと考えている。
- なお、今年度は、文部科学省から送付された資料においては、全国平均以外は整数値であったが、本市においては、独自に算出して、これまで通り小数値で公表したいと考えている。
- 今後、さらに詳細な分析を行い、市教委としての取組に生かしていきたいと考えている。

#### ■辻教育長

- ここまでの説明で何かあるか。

#### ■青田委員

- 調査結果が出たが、この後の対応や対策、流れはどうなるのか。

#### ■教育指導課長

- 今後の対応等であるが、本市には、学力向上プロジェクト委員会という先生方のほかに大学の先生も加わった組織があり、また、教育センターには研究員もいるので、情報共有を図りながら、さらに詳細な分析を行い、校長会、教頭会に示しつつ、各学校の実態をとらえ、具体的に来年度こういうことをやっていこうという資料を示したいと考えている。

#### ■学校教育部長

- あわせて、これから各学校の校内研修があり指導主事も参加するが、その際に、研究協議の中でも教育委員会としての今後の進め方等々、指導助言するという場面もある。

#### ■辻教育長

- やがて、来年度予算をどう組んでいくかという話になるので、市役所内部では、こうし

た結果を踏まえて、どんな対策が必要なのかを私たちが整理をして予算と関係するものについては、予算組みの中にも盛り込んでいきたいと考えている。

- 教科の結果については、今回初めて10年間のグラフを全部出したところであるが、国語は、ここ4、5年の傾向というのは、全国平均のラインを境目に上がったたり下がったりという普通の状態だと私は思っている。小学校も中学校もだいたい国語は全国平均並みということが言えると思う。
- ところが、やはりこの10年間で振り返っても、また国語で成果が出ている4、5年を振り返っても算数と数学は、全国よりは低いと言わざるを得ない状況である。この辺は、市長も算数・数学は低いと言う印象を持っているので、私たちとしても、ここにはさらに手立てが必要かなと考えている。

■青田委員

- 具体的に言えば、算数TTを少し増やそうとか、そういうような動きに繋がっていくと。

■辻教育長

- はい。その辺を何か説明できることはあるか。

■学校教育部長

- 今年度から3、4年生。3年生から急に学習内容が難しくなるということもあるので、小学校6校に4人、算数TTを市独自で配置している。配置された学校からは、やはり、よりきめ細かい、そして個別の指導が出来るということ非常に助かっていると、もっと人が増えるといいというような感想もいただいている。また、昨日、業務改善のワーキンググループで協議を行っており、直接的に業務改善、例えば先生方の授業時間が減るなど、そういう形での算数TTではないけれども、学力向上など子ども達のきめ細かな指導に関しては、この算数TTは非常に効果的なので、もっと増やして欲しいという意見もいただいている。

■青田委員

- 理数系は差がついてしまうと追いつくのがなかなか後々大変なので、出来れば低学年のうちからしっかり基礎を、差がつかないようにしていただければと思う。

■藤井委員

- 算数Bの問題であるが、ドリルだけでは駄目なので、あわせて、クリエイティブ、思考力などが必要なかなと感じる。

■辻教育長

- よく言われるのは、A問題については、ドリルを一所懸命やれば、ある程度成績は上がると。しかし、B問題は、授業の本質が変わらなるとなかなか成果が出ないと言われている。
- 次に、この結果概要を踏まえて道教委への報告書の対応について、続けて事務局から説明を依頼する。

■学校教育部長

- 議案第2号「平成29年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載に関し、議決を求めることについて」説明する。

- 北海道教育委員会作成の北海道版結果報告書への掲載については、道教委が示す基本フォーマットに沿って、函館市の調査結果を報告書に掲載することに同意したいと考えている。参考として、昨年度の掲載資料を机上に配付している。
- 本日の定例会において、掲載の同意について、決定していただきたいと考えている。
- なお、結果報告書の掲載については、9月29日（金）が返答の締め切りとなっているものである。

#### ■辻教育長

- 例年、北海道教育委員会が出している報告書の1頁分を函館市が使うということになる。昨年度でいうと、全道179市町村のうち150市町村位は同意して掲載されていたのではないかと思うが、今年も特別同意しない理由はないので、同じように同意をしたいという、そういう趣旨の議案である。何かあるか。
- ひとつだけ考えを聞きたいことがある。道教委から示されているのは、基本フォーマットである。そして、必ず載せる項目がレーダーチャートになっており、それ以外はオプションのようになっていて、各市町村が好きなデータを選べるようになっていて。去年はここにあるように、レーダーチャート以外のまわりにあるグラフを選んでエントリーをして、道教委にお願いをして出来上がっていったものということになる。
- また、文書で書いてあるところは、市としての分析やその対応策である。これは、全部の市町村が共通で載せることは、約束事となっており、市教委と道教委とが文書を精査しながら掲載したという形である。
- ここで、ひとつ提案であるが、去年はご覧いただいてわかるとおり、平均正答率の生数字というのは、道教委の報告書には載せていないが、今年はこの生数字も載せたらどうかと思っている。
- 具体について、どういうものが出来上がっていくのかというのは、これから道教委と相談しながら、このフォーマットに従い進めていくものなので、完成版を提示することは出来ないが、この後、何をどう載せるかについては、事務局に一任いただければ責任を持って載せたいと考えている。そして、その時に今回は平均正答率の生数字も載せたいと考えているので、そのことも併せてご意見をいただければと思うがいかがか。

#### ■藤井委員

- 生数字は、函館市、全国のほかに北海道も載るのか。

#### ■教育指導課長

- 北海道も載る。

#### ■藤井委員

- それであれば、いいと思う。

#### ■青田委員

- 基本的な質問であるが、この学力状況調査のデータというのは、函館は函館で集めるのだろうか、そのまま全国にデータは行くのか。それとも、函館はデータを集めて道教委に提出し、道教委が全国に提出するという流れなのか。

#### ■辻教育長

- 一人一人や、各学校のデータについてか。

■青田委員

- はい。

■辻教育長

- 文部科学省が採点しているので逆である。文部科学省から結果がくるものである。

■青田委員

- では、データ自体は国にあり、こういった報告書を道にあげるかあげないかは、各自治体の判断で行っているということか。

■辻教育長

- そういことである。
- ほかに何かあるか。

(意見なし)

- それでは、議案第2号については、原案のとおり決定する。

■辻教育長

- 本日子定していた議題については以上だが、ここで、報告事項を1件議題に追加する。
- 追加日程、報告事項「学校給食における異物混入事故について」報告を求める。

■学校教育部長

- 「学校給食における異物混入事故について」報告する。
- まず、事案の発生学校については、西中学校である。
- 発生日時は、平成29年9月13日(水)12時45分である。
- 給食調理校は、潮見中学校親子学校給食共同調理場である。
- 食数は117食であり、内訳は生徒101食、教職員16食となっている。
- 発見当日の状況であるが、中学校3年生のクラスで、生徒が「いりこナッツ」を配食中に、約6.5ミリメートル程度のビニールのような青い薄片が混入していることを発見し、担任に報告したものである。
- 異物の混入を発見後には、全クラスにおいて、安全確保のため、「いりこナッツ」の喫食の中止を指示したところであり、現在のところ、健康被害の報告はない。
- なお、混入異物については、発見後、調理業務委託業者が外部機関へ検査を依頼していたが、一昨日、9月25日に検査結果の報告があり、ゴム片であることが確認されたところである。

■辻教育長

- ただいまの報告について、何かあるか。

■小葉松委員

- 調理士が使っているゴム手袋の破片みたいなものなのかなと思うのだが。

■学校教育部長

- その辺も疑い、直接、業者にも確認を取らせたものである。そうしたところ、廃棄した手袋類も含め全部点検したが、そういう破損したものはなく、調理場内の全ての物も点検したが、確認は取れなかったということで、混入原因は不明ということで、道教委にも報告する予定である。

■藤井委員

- 「いりこナッツ」の場合、加工食品の原材料から入ったということもあり得るのか。

■学校教育部長

- そうなると、あらゆることが想定されるものであるが、原因究明までは、至らなかったものである。

■須田委員

- 例えば、髪の毛一本に対しても、今回のように公表するのか。

■学校教育部長

- 道教委への報告には基準があるが、危険物と非危険物というものがあり、髪の毛は量にもよるが、基本的には非危険物であり報告を要しないものである。
- ビニール類も非危険物であり、今回、最初発見されたときには、ビニールのようなことで、一応道教委のほうにもビニールのようなものがあつたという速報を入れ、相談しながら、それを特定しようと調査したところゴムという結果が出たものである。ゴムは危険物のため、この度、公表することになったものである。

■辻教育長

- 一定の基準があり、道教委に報告する系統と、それから市教委として判断して世の中の方に公表するかどうかという両方あるが、この度は、報告も公表もすべきだと判断したものである。今後、こうしたことがないように指導してまいる。
- これで報告事項を終了する。
- 次に、日程第4「五稜郭中学校関係者との懇談」に移る。

(懇 談)

■終了宣言

- 午後4時40分

議事録署名人 藤 井 壽 夫

〃 小葉松 洋 子

調製者庶務係 奥ヶ谷 貴 史